

模擬体験を取り入れた小学校社会科政治学習の実践研究

吉田 剛 星 博子

Practical Study of Political Learning in Elementary Social Studies
Incorporating Simulated Experience

YOSHIDA Tsuyoshi & HOSHI Hiroko

概要

本稿は、18歳からの選挙権制度を見据え、小学校社会科政治学習において児童に難しいと感じられる政治を自分の身近なものにするために、模擬体験を取り入れた指導を計画・実践・省察し、その効果的な在り方に関する事実をつくり、言及することを目的とした。社会科では、政治に関わる知識・理解の基礎のもとに、社会的な判断力や行動力の育成が必要となる。このもとに本実践では、模擬体験を取り入れ、児童に自分たちの生活との関わりから政治を身近なものとして考えさせた。一時間の中の前半に基礎的な知識を習得させ、後半に模擬体験学習を行い、実感を伴った政治的教養の基礎となる知識・理解に繋げられた。さらに将来、選挙に行きたい等、実際の政治行動に結び付く価値態度が高められた。この成果を参照しながら、模擬体験学習の理論化に向けて、その効果や意義、授業展開上の方法、環境整備や条件設定等の観点について言及した。

Key words : 18歳選挙権, 模擬議会, 模擬裁判, 模擬投票

I 問題の所在

18歳からの選挙権制度が始まり、民主主義を担える国民としての政治的教養の充実が求められている(吉田・横山, 2018)。これに向けて、京都市教育委員会(2016)や神奈川県教育委員会(2017)等の地方教育行政では、小中高を一貫する政治的教養を育む教育の系統的な学びの考え方や学習指導案を示し、学校教育現場での政治的教養教育の普及を図っている。他方で、磯崎(2011)は、わが国の政治教育推進上の課題として、社会科や政治教育の重要度への認識が弱いことや、現場でのカリキュラム開発に時間的な余裕がないこと等を指摘し、政治的教養の充実に向けた現場での社会科の果たす役割が期待されている。これらを踏まえ、本稿は、政治的教養の基礎となる重要な導入期となる小学校社会科政治学習(第6学年)に着目する。

先行研究をみると、①実践研究として、秋吉(2005)

は、将来の政治参加を促すような内容へと転換させる授業開発を行い、坂井(2015)は、政治的リテラシーに関わるシティズンシップ育成を目指した実践を示している。②政治的リテラシーに関する実践研究として、岡田(2016)は、政治的リテラシー涵養の学習のあり方を明らかにするために、時事的な論争を考え判断することが、それを涵養する題材に相応しいこと、また「判断の規準」に基づいて論争・思考することや、パフォーマンス評価が重要になることを明らかにしている。③批判的思考に関わる成果として、菊池(2015)は、政治の仕組みや政策内容が改良され続けるべきものとする政策批判学習の授業構成原理を示している。④現代的な視点から、神野(2018)は、「税金」を取り上げる意義を検討し、そのための授業づくりの方策を具体的に提案している。桑原・横川(2018)は、政治的見方・考え方の育成を目指した授業構成の原理を明らかにし、具体的な

単元開発を行っている。①と②は、参加や政治的リテラシーの育成等を強調し、③は、中学校社会科からの概念的知識と批判的思考を組み込み、④は、コンピテンシー重視の概念理解を重視している。これらの研究成果を受けて平素の実践を考えると、やはり柔軟に授業展開を行うことは難しい。この点は、大きな課題として指摘できる。

他方で、実践上の課題として、小学校社会科政治学習では、「税金」「政治参加」「裁判員制度」等の抽象的な意味内容となる用語や語句が多くみられ、様々な概念的知識を必要とする。そのため、発達段階上では、児童にとって「難しそう」や「よく分からない」等の内容として受け止められている傾向が強い。

以上の課題を乗り越えるために、本稿では、児童にとって分かりやすい等の実感の効果が見込まれる模擬体験に着目し、単元全体におけるその効果的な在り方を考える。ただし、その在り方に関する先行研究や実践例上の議論は、皆無に等しい。

そこで本稿は、児童が政治を身近なものとして自分の課題にするために、単元全体を通して身近な題材を用いた模擬体験を複数回組み込む新たな小学校社会科政治学習の指導を計画・実践・検証し、模擬体験学習の効果的な在り方に関する事実をつくり、言及することを目的とする。

方法は、次の三つをとる。

- ①「国の政治のしくみ」(全4時間)に模擬体験を複数回(議会、裁判、投票)組み込み、先行研究や実践例にみられない新たな単元開発を行う。その際に、難解でイメージしにくい概念的知識となる語句や用語は、キーワードとして扱い、児童に一時間の中の前半部にそれらの基礎的な知識・理解を踏まえさせ、後半部に自分たちの課題に関わる模擬体験を通して実感を伴うようにさせる(本指導計画の詳細は本稿末尾の添付資料による)。
- ②授業展開の実際と児童の感想による学習成果の概況を省察し、単元全体からみる本実践の意義について考察する。単元全体の内容構成を重視する社

会科研究の特性ともいえるが、本稿では、単元全体を通じた学習成果の概況をみるアプローチをとり、とくに学習成果の概況を示す児童の主な感想を取り上げる。

③①②の研究成果を参照しながら、模擬体験学習の理論化に向けた観点について言及する。

II 実践および学習成果の概況

平成29年版小学校学習指導要領社会編の「内容構成の改善」を踏まえると¹⁾、選挙権の18歳引き下げのためか、第6学年前半に政治学習が置かれることになった。しかし本稿では、未だ現行の歴史学習の後の政治学習となるために、実践の実施時期は、12月となる。よって、本実践における児童には、既に歴史上の政治的事象の基礎的な認識が形成されていることになる。

1 政治を身近なものに

第1時(国会の働き)は、自分とのつながりから国会の働きについて実感を伴って理解させるようにした。そこで震災後に完成した学校近くの児童が普段よく使う北山トンネル(写1参照)を取り上げた。このトンネルができたことで市街地にまっすぐ向かえ、時間短縮されたことで通勤や通学に便利になったことに着目させた。授業の始めに、このトンネル写真を提示して関心を高め、これを作る予算の約3分の1が国から出ていることを知らせた。国の政治を身近なものとして実感させた上で、国会の働きについて学ばせた。

実践後の児童のふり返りには、○「決まった予算で生活にかかせない道路や水、病院などさまざまなものに使われている。」、○「この予算や法律のおか



写1 北山トンネルの提示資料

げで私たち国民は平和で安全な生活をおくることができている。」、○「自分がいつも利用している北山トンネルも国などの補助を受けてつくられていることが分かった。また、教科書などの身近なものも税金でつくられているので、国会で話し合っているということを忘れずにこれからも生活していきたいです。」等がみられた。

概ね児童は、身近な題材から議会や税あるいは国民のくらしに関心を持ち、それらの知識・理解の意味内容を整理しながら学習していた。

2 模擬閣議と模擬裁判を通して

第2時（内閣の働き）は、児童が内閣を身近なものとして捉えて考えられるように、「模擬閣議」を計画した。児童は、内閣の仕組みと働きを学習した上で、グループごとに、それぞれに文部科学大臣や外務大臣等の役割を持ち、模擬閣議を行った（写2参照）。閣議テーマは、「2020年に限り、体育の日を東京オリンピック開会式（7月24日）に変更してはどうだろうか」と設定した。内閣総理大臣役は、話し合いを進め、各大臣役は、それぞれの立場から発言していた。児童は、大臣の仕事内容を教科書や資料集で確認しながら閣議を進めることによって、内閣の仕組みや大臣の立場を一層理解したことになる。各立場には、次のような発言がみられた。文部科学大臣「夏休み中なので、祝日にする必要はない」、環境大臣「祝日になるとたくさんの人が出かける。渋滞も起こり、環境に悪い」、国土交通大臣「祝日にすると、交通渋滞が発生する。選手が移動できない」、外務大臣「たくさんのお客さんが来るので、祝日にしてみんなでおもてなしをするべき」、厚生労働大臣「祝日にして、たくさんの人が開会式を見られるようにしたい」。

実践後の児童のふり返しには、○「今回、実際に閣議をしてみて、それぞれの省によって、出る意見が異なり、おもしろかったです。教科書に祝日なども閣議で決めているということが書かれていて、自分の身近なことに内閣が関わっていることを知っ

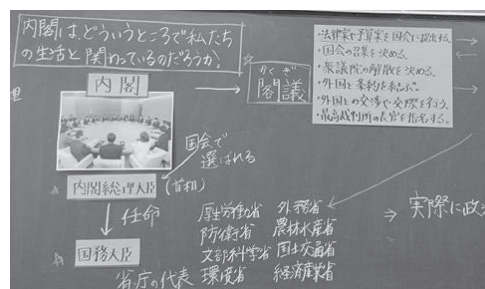
た。」、○「それぞれの大臣がいろいろと違う意見を言うので意見をまとめるのは大変だと感じました。」、○「内閣総理大臣は、国会で選ばれ、衆議員や参議員は国民から選ばれる。結果としては国民が衆議員、または参議員の誰を選ぶかによって内閣総理大臣が決まるため、国民が誰を選ぶかによって、政治が変わる可能性がある。」等がみられた。

模擬閣議では、一定の条件設定の中で活発な意見交換が行われた。児童は、前時の国会の働きと結びつけて複雑な内閣に関わる知識・理解の意味内容を整理しながら（写3参照）、模擬閣議によるロールプレイを通して主体的に実感を伴って学習していた。発展的には、修学旅行等で「参議院特別体験プログラム」²⁾のような模擬体験学習を行えば、その効果は一層高まるであろう。

第3時は、8年後、児童が裁判員に選ばれる可能性があることを念頭に置き、デジタル教材を使用した模擬裁判を計画し、「NHK for School」の番組『昔話法廷』より「白雪姫裁判」を視聴させ、裁判員として有罪か無罪か考えさせた。そのあらすじは、次の内容とした。「とある法廷で、裁判員裁判が始まり



写2 模擬閣議の場面

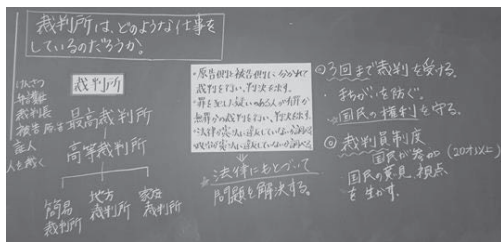


写3 第2時の板書の一場面

ました。裁かれる被告人は、王妃。白雪姫に、毒リンゴを食べさせて殺そうとした罪に問われています。しかし、王妃は『白雪姫に会いになんか行ってない』と全面否定。王妃は、本当に白雪姫を殺そうとしたのでしょうか。

児童の判決シートをみると、有罪・無罪の有無とその根拠が示され、意見交換がなされた。実践後の児童のふり返しには、○「裁判員制度は国民が参加するので、僕にもすごく関わりがあると知らなかったのでおどろきました。」、○「裁判員制度の取り組みによって国民の意見を反映している。」、○「国民の考えを生かすため 20 歳以上の人から選ばれる裁判員制度もあり、もしもぼくがなったら、このことは生かしたいと思いました。」等がみられた。

児童は、模擬裁判の明瞭なシナリオのもとでのシミュレーションを通して、知識・理解の内容を整理しながら(写4参照)、自分ごとにして実感を伴って裁判や裁判員制度を考えていた。



写4 第3時の板書の一場面

3 模擬投票による実感そして行動へ

第4時は、「よりよい社会を実現するために、自分は何ができるだろうか。」と問い、まず三権分立を学習し、国会と内閣、国会と裁判所などの三権相互と国民とのつながりについて理解させた。その後、国民が直接関わる投票行動をまとめとして扱い、児童は模擬投票を行った。18歳選挙権の引き下げは、12歳の児童にとって身近な話題となり、選挙の自分たちの生活と政治への関わりをより実感できると考えたからである。

模擬投票には、仙台市選挙管理委員会による教材を使用し、「模擬仙台市長選挙」を行うことにした(写

5参照)。模擬投票を行う1週間前から教室に「選挙公報」を貼りだした。「選挙公報」は数種類あったが、児童の実態に合わせ「空き地の活用」に関する立候補者の公約に決定した。児童は休み時間や給食の時間などに、友達と「選挙公報」を見たり、誰に投票するか話したりしていた(写6参照)。また、児童一人一人に選挙の投票所入場券を作成し手渡すことで、投票日に向けて意識を高めるようにした(写7参照)。

模擬投票当日は、実際に使用する投票箱や記入台を借用し、投票を行った。入場券や投票用紙も本物に近づけた物を作成した(写7参照)。投票当日は、児童の代表が受付を行い、名簿との照合も行った(写8,9,10,11,12,13参照)。なお、期日前投票や投票当日には、学校内の複数の教職員による立ち会い等の協力が得られた。「選挙公報」を1週間掲示していたことで選挙に対する関心が高くなり、また、本物の道具を使用することができたことで、より現実味を帯びた学習となった。

実践後の児童のふり返しには、○「国会や内閣、裁判所の中心には国民がいるということを聞いて、国民たちの選挙が大切なんだと思いました。なので私は、18歳になったら選挙へ行こうと思います。」、○「ぼくは、よりよい社会を実現させるには、自分のやくわりを果たすことが大切だと思いました。なぜなら、投票や世論、国民審査など国民が参加することはいろいろあるからです。だから、ぼくはこれから大人になったらいろんな政治に参加していきたいです。」、○「18歳になったら、しっかり選挙に参加して、国が変わるための1人として役立ちたいです。」、○「本当にこの人ならまかせられると思う人に投票することが、今もこの先も大切になってくると思います。6年後、私はそのことを心にとめておきたいです。」等がみられた。

模擬投票によるシミュレーション・ロールプレイの効果は、前の二つの模擬体験を重ねてきたこともあり、十分に確認でき、多くの児童には、その先の責任や行動にも繋がる実感がみられた。加えて、模擬投票時の現実的な環境や手順を用意したことも効

仙台市長選挙 選挙公報

～空き地の活用を考えよう～

仙台市選挙管理委員会

取りもどそう！活気ある公園
子ども達がのびのび遊べる公園を作ります！

公園にはたくさんの遊具を設置し、サッカー場も
つくります。
じゅんぱん回パトロールを行い、みなさんが安心して
遊べるようにします。



空き地を有効活用して
ちゅう車場を作ります！

施設や公園を作っても本当に使う人がいるか
分かりません。
ちゅう車場を作り、ちゅう車料金を市の収入にし
てみなさんの教育のために活用します。



大型ショッピングセンターを作って
休日・放課後も楽しめる場所を作ります！

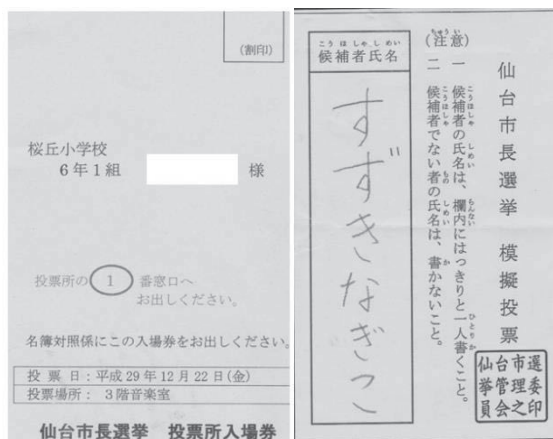
食料品・日用品・衣料など何でもそろ
うショッピングセンターです。
キッズスペースを設置し、お友達と勉強をしたり
おしゃべりを自由にできる場所にします。



写5 模擬選挙「選挙公報」ポスター



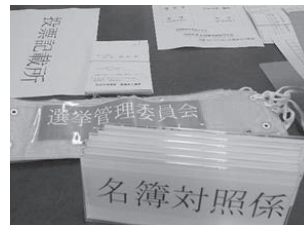
写6 「選挙公報」ポスターをみる児童



写7 模擬選挙用選挙権（桜丘小学校アレンジ）と模擬投票用紙（仙台市選挙管理委員会サンプル）



写8 期日前投票の様子



写9 模擬選挙用の腕章や受付用具



写10 児童が模擬選挙の受付を行う場面



写11 児童が模擬選挙の記名を行う場面



写12 児童が投票箱に投票用紙を入れる場面



写13 選挙管理委員役の児童（右）

果があったと窺えた。これらから、模擬投票の組み込み方や学習環境の用意等の重要性が確かめられ、この点は、取り上げる学習内容と方法によって、大きく左右されるであろうが、今後の模擬体験学習の理論化に繋がる。

Ⅲ むすび

単元全体を通して得られた児童のふり返しには、典型となる次の三つがみられた。○「ぼくは、これまでの学習を通してたくさんのが分かりました。例えば、前は政治のことでは金と権力ぐらいしか考えていませんでした。でもこの学習で国会、内閣、裁判がそれぞれ独立していて全て国民が中心になっていることが分かりました。そして、ぼくは、よりよい社会を実現させるには、自分のやくわりを果たすことが大切だと思いました。なぜなら、投票や世論、国民審査など国民が参加することはいろいろあるからです。だからぼくはこれから大人になったらいろんな政治に参加していきたいです。」、○「この学習を通じて、国会と内閣、内閣と裁判所、裁判所と国が繋がっていることが分かりました。また、全てのところに国民の意見を反映させているということも分かりました。今後の未来の社会をよりよくするためには、選挙をして、自分の意見を伝えることから始まることが分かりました。」、○「私は、政治について最初は自分にとってほど遠い物なのだと思っていたが、勉強していくうちにわりと身近なことなのだと思うようになった。そう思うようになった理由には、三権分立などの政治のしくみが大事だということが分かったからである。このことを通して私は、政治は私達に身近なことであり、政治のしくみをきちんと知ることが必要だと学んだ。また、これからも政治について勉強していきたいと思う。」

児童の政治学習への関心は高まり、最初、難しいと感じていた多くの児童は、自分たちの生活に関わっていることに気付き、政治をより身近なものとして考えていた。また、一時間の中の前半に政治に関する基礎的な知識の習得、後半に模擬体験を行い、

実感を伴った理解に繋がられていた。さらに将来、選挙に行きたいなど、実際の政治行動に結び付く価値態度が高められていた。

以上から、本稿の成果は、平素の授業展開を見据えて、小学校社会科政治学習において単元全体を通して模擬体験を複数回組み込む単元開発を行った点、そしてその実践を通して政治的教養の基礎となる知識・理解や主体的な態度に実感を持たせる教育効果を示した点に、先行研究や他の実践例にみられなかった、単元全体を通した模擬体験の効果的な在り方となる事実づくりとしての意義が得られたことである。このような模擬体験を重視した平素の実践の普及によって、18歳からの選挙に向けた政治的教養の基礎的な資質・能力の育成が期待できよう。

以上の成果を参照しながら、模擬体験学習の理論化に向けて、次の三つの観点が言及できる。

○単元を通して、自分に関わる課題（素材）を用いて、積み重なる模擬体験を組み込む探究を行うと、実感が持てる授業展開になる。つまり、難しい用語・語句に関する学習内容の知識・理解とともに、実感を伴う社会的な判断力や価値態度の形成、行動を促すことができる。

○授業展開上、模擬体験を組み込む場面には、様々な意図が見いだせる。例えば、授業展開の前半部か後半部に位置付けると、帰納的か演繹的に学習内容の知識・理解やその活用を促すことができる。また発展部では、得られた知識・理解を活用して、社会的な判断力や価値態度の形成、そして行動により効果的に導くことができる。加えて、様々な模擬体験の積み重ねによって、その教育効果はさらに発揮されていく。

○模擬体験を複数回組み込む場合、実感の効果の重なりを学習過程に求めるとともに模擬体験用の学習環境（活動場所や特殊な用具等）の整備あるいは多様な活動となるロールプレイやシミュレーション等による学習上の条件設定（考え合う場の設定、話し合いのさせ方や進行、明瞭なシナリオ等）にも十分に配慮する必要がある。

課題には、小学校社会科政治学習の実践例を充実させるとともに、シミュレーション・ロールプレイの効果をより詳細にみるために各授業場面のエピソードや教師・児童の発言等に着目した分析等があげられる。教育方法上の手段となる模擬体験学習の理論化への議論も大きな課題となろう。

注

- 1) 我が国の政治の働きに関する内容は、順序を改め、内容の(2)を(1)として示すとともに、これまでのア（地方公共団体や国の政治に関する内容）、イ（日本国憲法と国民生活に関する内容）の順序も改め、ア日本国憲法や立法、行政、司法の三権と国民生活に関する内容、イ国や地方公共団体の政治の取組に関する内容として示した。その際、イは、「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わり」を取り上げるように示すとともに、内容の取扱いで、これまでの「地域の開発」を「地域の開発や活性化」と改めた。
- 2) 国会を訪れた子供たちが、委員会・本会議での法案審議をロールプレイ形式で模擬体験し、国会の理解を深める体験プログラム。https://www.sangiin.go.jp/japanese/taiken/t_program/t_program.html(最終確認日 2019.12.25)

【参考文献】

- 秋吉洋志(2005)：小学校政治学習の授業改善―第6学年「わたしたちの暮らしと政治」の場合―。社会科教育論叢, 44, pp.77-81.
- 磯崎育男(2011)：民主社会と政治教育。千葉大学教育学部研究紀要, 59, pp.259-265.
- 岡田泰孝(2016)：「政治リテラシー」を涵養する小学校社会科学学習のあり方―時事的な問題を「判断の規準」に基づいて論争する―。社会科教育研究, 129, pp.14-27.
- 神奈川県教育委員会(2017)：『小・中学校における政治的教養を育む教育 指導資料 平成29年3月』。
- 神野幸隆(2018)：「税金」に焦点をあてた小学校社会

科政治学習の授業開発。初等教育カリキュラム研究, 6, pp.31-40.

桑原敏典・横川和成(2018)：政治的な見方・考え方の育成を目指した小学校社会科単元開発―第6学年の我が国の政治の働きに関する学習を事例として―。岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 169, pp.15-24.

京都市教育委員会(2016)：『政治的教養を育む教育を進めるにあたって～小学校・中学校・高等学校の発達段階に応じた政治的教養を育む教育にかかわる学習指導案集～』。

菊池八穂子(2015)：政策批判学習による小学校政治学習の改善―第6学年小単元「私たちの生活と政治」を事例として―。名古屋学院大学論集, 人文・自然科学篇, 52(1), pp.29-40.

坂井清隆(2015)：シティズンシップ教育の開発研究―小学校社会科における政治学習の実践分析を通して―。西南学院大学大学院研究論集, 1, pp.157-170.

文部科学省(2018)：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』日本文教出版。

吉田剛・横山奈緒子(2018)：選挙権年齢の引き下げに伴う政治や選挙に関する意識調査―社会系教科における政治的教養の教育の改善に向けて―。公民教育研究, 25, pp.117-125.

付記

本稿は、2018年11月4日に日本社会科教育学会全国大会（奈良教育大学）での報告に加筆したものである（日本社会科教育学会全国大会発表論文集, 14, 296-297.）。本稿作成にあたっては、主に吉田が政治学習に関わる理論検討・実践評価・模擬体験学習の理論化を担当し、星は主に実際の指導計画作成と実践を担当した。また、本稿の実践は、平成29年度仙台市確かな学力研修委員会による提案授業の一環としても行ったものである。指導案作成に際しては、委員の先生方とも検討を重ねた。感謝申し上げます。

【添付資料】 第6学年 学習指導計画

■日時 平成29年12月8日（音楽室） ■指導学級 仙台市立桜丘小学校6年2組 ■実践者 星 博子 教諭

■小単元名 「国の政治のしくみ」

■小単元目標 我が国の政治の仕組みに関心を持ち、国会、内閣、裁判所の働きとともに、三権相互の関係や三権と国民の関係を理解する。

■小単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
我が国の政治の働きに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	国会、内閣、裁判所の各機関が関わり合って政治が行われていることや、各機関の働きと国民との関係について考え、学習した語句や用語を用いて適切に表現している。	資料を活用し、我が国の政治の働きについて必要な情報を読み取っている。	国会、内閣、裁判所の各機関の働きを理解している。 三権相互の関係や、三権と国民との関係を理解している。

■指導にあたって

1) 単元

○本小単元は、学習指導要領の内容（2）一ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。」について扱う。我が国の政治の仕組みについて、国会・内閣・裁判所それぞれの働きと、三権相互の関係や国民との関係を理解することをねらいとしている。

○前単元「震災復興の願いを実現する政治」において、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを学習してきた。復興のための予算や法律の制定など、国や県、市などが様々な取り組みを行っている。これらの学習を通し、政治が自分たちの生活に関わっていることを考えてきた。

○本小単元では、予算や法律の制定に関わる国会や内閣、裁判所といった、より具体的な国の政治の仕組みを調べた上で、国民との関係や、三権分立の重要性に気付かせていきたい。また、指導要領では「国会の働きと関連づけて内閣や裁判所の働きを取り上げ三権相互の関連を理解できるようにする」とあることから、「知識・理解」中心の学習になるが、社会の一員である児童にとっても確実に身に付けておきたい内容である。さらに、祝日の意味や選挙権が18歳に引き下げられたこと、裁判員制度などを取り上げることを通して、児童にとって政治は自分に関わる身近なものと感じさせ、主権者意識の育成につなげていきたいと考え、本小単元を設定した。

2) 児童

○6学年の社会科「日本の歴史」の学習においては、予想をもとに課題を設け、教科書や資料集を用いて調べ、自分たちでまとめる学習を行ってきた。また、グループ学習を意図的に取り入れ、考えを共有したり、話し合ったりすることで、学習した用語や語句を用いて自分なりに本時のまとめができるようになってきた。しかし、調べ方やまとめ方には個人差が見られる。実際に見たり聞いたりすることができない歴史を身近なものとして捉えられず、関心を持っていない児童もいる。

○児童が政治分野に意欲・関心を持って学習に取り組むことができるよう、時事問題などを取り上げ、自分に関わりのあることとして捉えられるようにしていきたい。また、知識が定着するよう、大切な用語や語句を押さえるだけでなく、覚えたことを活用する場面を設け指導にあたっていくことが必要である。

3) 指導

○身近な話題を取り上げ、自分とのつながりを意識させることで、実感を伴った理解ができるようにする。
・政治に関する新聞記事や話題になっている事柄（宮城県知事選挙や衆議院議員選挙、18歳選挙権など）を取り上げることで、自分に関わる課題であることを意識させる。
・自分の立場を明確にし、学んだことを生かして自分の考えを文章にしたり、伝えたりする時間を設ける。

○学習した語句や用語を用いて、本時のまとめを自分なりにまとめ文章に表したり、伝えたりすることで、知識の定着を図る。
・学んだ内容や、その時間でおさえる用語や語句の理解を目指し、毎時間自分で学習のまとめをノートに書く活動を取り入れる。
・グループ学習を行い、自分たちがまとめたことを共有したり話し合ったりした上で、グループのまとめを発表し合う。各時間や単元における大切な用語や語句を全体で確認した後、個人に戻し、もう一度自分のまとめを振り返らせることで、大切なことを確実におさえられるようにする。

■小単元の指導計画

	めあて ○主な学習活動 ・児童の反応	◆指導上の留意点 指導する用語・語句 評価	資料
1 (本 時)	<p>国会は、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。</p> <p>○国会の働きについて調べる。 ・衆議院と参議院からなっており、予算や法律を決めている。 ・国会議員は選挙で選ばれる。 ・選挙権は、国民が政治に参加するための大切な権利である。</p> <p>○国会の働きのうち、「予算を決める働き」を取り上げ、自分たちの生活とのつながりを調べる。</p> <p>○三権分立の図に、国民と国会の関係を書き込む。</p>	<p>国会(衆議院 参議院)選挙 国会議員 予算</p> <p>◆国会の働きが、震災復興にも関わりがあることを捉えさせる。</p> <p>関心・意欲・態度 我が国の政治の働きに関心をもち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>知識・理解 国会は国の政治の方向を話し合っていること、国会議員は選挙で選ばれることを理解し</p>	<p>・北山トンネルの写真 ・北山トンネルの建設費のグラフ ・国会議事堂の写真 ・国家予算(歳出)のグラフ ・NHKデジタルコンテンツ</p>
2	<p>内閣は、どういところで私たちの生活と関わっているのだろうか。</p> <p>○内閣の働きと仕組みについて調べる。 ・内閣総理大臣が中心になり、国民のための仕事を行っている。 ・内閣のもとで、様々な省庁が仕事を行っている。</p> <p>○三権分立の図に、国民と内閣の関係を書き込む。 ・国民と国会のように、内閣も国民とつながっている。 ・国会と内閣も関係があるのではないか。</p> <p>○2020年に限り「体育の日」を変更する案が上がっていることを取り上げ、グループごとに模擬閣議を行う。 ・自分の思いだけでは法律を決めることはできない。 ・祝日を決めることにも内閣が関わっている。</p>	<p>内閣 内閣総理大臣 大臣閣議</p> <p>◆復興のための予算作成に内閣が関わっていることを気付かせる。</p> <p>知識・理解 内閣は内閣総理大臣が中心となって、国の仕事を進めていることを理解す</p> <p>技能 資料を活用し、我が国の政治の働きについて必要な情報を読み取っている。</p> <p>◆内閣総理大臣や国務大臣の立場に立って考えさせることで、予算や法律に基づいて国民全体を考えて仕事をしていることを実感させる。</p>	<p>・日本の収支と支出のグラフ ・内閣の写真 ・祝日に関する新聞記事 ・2020年の体育の日に關する記事</p> <p>・三権分立の図</p>
3	<p>裁判所は、どのような仕事をしているのだろうか。</p> <p>○裁判所の働きと仕組みを調べる。 ・裁判員制度によって、国民も裁判に関わっている。</p> <p>○三権分立の図に、裁判所と国民の関係を書き込む。 ・裁判所も、国会や内閣、国民とつながっている。 ・三権全てが関係し合っている。</p> <p>○NHKデジタルコンテンツを使用し、裁判官の立場で原告、被告の話を聞き、自分の考えをノートに書く。 ・結論を出すのが裁判官である。 ・最高裁判所の裁判官は、より責任が重い。</p>	<p>裁判所 裁判員制度 裁判員</p> <p>知識・理解 裁判所は、国民の権利を守るために仕事をしていることを理解している。</p> <p>◆三権がそれぞれ国民と関わっていることに気付かせる。</p> <p>技能 資料を活用し、我が国の政治の働きについて必要な情報を読み取っている。</p> <p>◆模擬裁判を通して、裁判官の仕事や責任に気付かせる。</p>	<p>・裁判員制度のポスター</p> <p>・三権分立の図</p> <p>・NHKデジタルコンテンツ 「昔話法廷」</p>

4	<p>よりよい社会を実現するために、自分は何ができるだろうか。</p> <p>○三権分立の図を見て、三権と国民の関係を考える。 ・国会・内閣・裁判所は、お互いにつながっている。 ・それぞれ、国の大事な仕事を分担している。 ・三権の中心には、国民の願いや意見がある。</p> <p>○事前に教室内で示して置いた「選挙公報」3者の主張に対して、模擬投票を行い、有権者の立場から「空き地の利用」について考える。</p> <p>○自分が18歳になったとき、どんな考えを持つ人に投票したいか、自分の思いをノートに書く。 ・住民の思いを国会に伝えるため、住民との話し合いをたくさんする人に投票したい。 ・復興政策を継続してくれる人に投票したい。</p>	<p>三権分立 行政権 立法権 司法権</p> <p>◆三権それぞれが大切な働きをしており、相互に関係し合っていることを捉えさせる。</p> <p>思考・判断・表現 政治は国民の願いや意見を中心に進められ、大切な働きをしていることを考え、文章に表現している。</p> <p>◆身近な課題の意味・意義について考え、判断・表現させ、責任を実感させる。 ◆選挙管理役の児童には、事前に業務内容を理解させて置き、責任を実感させる。 ◆今までの学習を振り返り、国民が政治に関心を持つことが大切なことに気付かせる。</p> <p>関心・意欲・態度 私たちの生活と政治の関わりについて関心を持ち、政治に対する考えを進んで表現している。</p>	<p>・三権分立の図</p> <p>・「選挙公報」ポスター</p> <p>・宮城県知事選挙</p>
---	---	--	---

■本時の指導（1/4）

- 1) 本時のねらい 国会の働きを意欲的に調べることを通して、国会の働きや、国会議員は選挙で選ばれていることを理解する。
- 2) 本時の指導過程

学習活動	形	教師の働きかけ ・児童の反応	※留意点 ○資料 評価
導入 5分展開	1 北山トンネルの写真から、トンネル建設に国のお金が使われていることを知る。 国会は、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。	○教師の働きかけ ・児童の反応 ○北山トンネルの写真を見せ、国会が自分たちの生活にもかかわっていることに関心を持たせる。 ○トンネル建設費の円グラフから、建設費の一部が国の予算であることを読み取らせる。	※ノートや資料を振り返り、前単元とのつながりを意識できるようにする。 ○震災復興予算（国・県） ○北山トンネルの写真
30分	2 国会の働きについて確認する。	全 班 ○国会の働きを、教科書を使って確認する。 ○NHKデジタルコンテンツを視聴し、国会は衆議院と参議院があることを確認する。 ・国会議員は選挙で選ばれる。 ・国会は、予算や法律を話し合っている。	○国会議事堂の写真 ○NHKデジタルコンテンツ「国会・衆議院と参議院」
3	3 予算や法律を決めている働きに着目し、自分たちの生活とどのようなところで関わっているのか調べ、グループで短冊に書いて発表する。	全 班 ○国会の働きのうち「予算を決めている働き」を取り上げ、予算の使い道を短冊に書かせる。 ・道路や公園を作っている。 ・教科書は国の予算で作られている。 ・震災からの復興にも国の予算が使われていた。 ○短冊を整理し、どんな目的で予算が使われているのか考えさせる。 ・もっと暮らしやすくなるように。 ・国民が安全に暮らせるように、予算を使っている。 ○震災復興のために法律が作られていたことを振り返り、法律も国民の安全や生活の向上を考えて制定されていることを押さえる。 ○短冊を整理し、国会の働きについてまとめさせる。 ・国会では、国民がより暮らしやすくなるように話し合っている。 ・国会は、国民が安全で快適に暮らせるように、国民のことを考えて仕事をしている。	○国の予算のグラフ ※短冊には短い言葉で書くようにする。 関・意・態 政治の働きに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。(ノート・発表) ※短冊をもとに、国会と自分たちの関わりを意識させながらまとめるようにさせる。 ※グループの発表を通し、大切な用語や語句に気付かせる。 知識・理解 国会議員は選挙で選ばれることや、国会の働きについて理解している。(ノート・発表)

まとめ 10分	4 国会の働きについて、分かったことをまとめる。	個	○ノートにキーワード(衆議院, 参議院, 選挙, 予算や法律)を使って、本時のまとめを書かせる。	※選挙権を正しく行使することが大切であることをおさえる。
	国会は、選挙で選ばれた国会議員が、国民がより暮らしやすくなるように、予算や法律を決めている。			
	5 三権分立の図に、自分と国会の関係を書く。		○単元を通して三権分立の表を完成させていくことを伝える。	○三権分立の表 ※今まで学習してきたことをもとに考えられるようにする。

■評価の観点

観点	具体的評価基準 (B)	Aと判断する具体的な姿	Cの児童に対する手だて
知識・理解	国会の働きや国会議員が選挙で選ばれることについて、学習した用語や語句を使ってまとめている。	国会の働きや国会議員が選挙で選ばれることや、国民の生活向上のために予算や法律を決めていることを理解している。	国会の働きや国会議員が選挙で選ばれることについて、板書を使って学習内容を振り返らせる。

■本時の板書計画

